

## 専門総合講座 A1 現代新聞論（朝日新聞社提携講座） 塚本 三夫

### 履修条件

特にないが、新聞などを中心とする現代のメディア状況に関心をもつ学生、また将来の進路として、新聞ジャーナリズムやメディアへの就職、研究などを考える学生の受講を希望する。講義の受講中は、日々の新聞に目を通すなど、社会、世界のニュース動向に関心をもつことを期待したい。

### 科目の目的・到達目標

生きたジャーナリズムの現場、その仕事、直面している課題、難題、役割と意味、将来の展望などを理解する。とともに、講師たちの視点、問題意識などを知ること、学生自身の現代のメディア状況、社会、世界への関心と理解を深めることを目的としたい。

### 授業の概要

「現代新聞論 ― 激変期を迎えた新聞ジャーナリズムはどこに向かうのか」をテーマとするこの講義は、ネットワーク多摩との提携のもと、朝日新聞社が新聞報道の第一線で働く、記者、編集委員、論説委員、編集局幹部らを講師としてネット配信するかたちで実施される。日本も世界も大きな激変期を迎えるいま、今年、大きな問題となるだろう事象やテーマに焦点をあてつつ、日々のジャーナリズム、メディアの現場、新聞ジャーナリズムの現在と今後を講義し考える。提携講座のため他大学生の履修も考えられるが、出席する学生には授業への積極的な参加を求め、アンケート、質疑、ディスカッションなどを大事に、双方向の授業をめざす。

### 授業計画

- |     |         |  |
|-----|---------|--|
| 第1回 | ( 9・30) | 激変期の新聞ジャーナリズム——「新聞」はどこへ向かうのか<br>ジャーナリスト学校主任研究員（朝日新聞社コーディネータ）<br>五十嵐 文生 |
| 第2回 | (10・ 7) | 権力と報道——政治ジャーナリズムはいかにあるべきか<br>政治グループ次長 国分 高史                            |
| 第3回 | (10・14) | 裁判員裁判報道の課題——変わる裁判報道は何を報じるべきか<br>社会エディター 梅田 正行                          |
| 第4回 | (10・21) | 内部告発と調査報道——情報源と記者の関係はどうあるべきか<br>編集局（遊軍）記者 奥山 俊宏                        |
| 第5回 | (10・28) | 不況期の貧困と労働報道——「働くこと」をどう報道していくか<br>編集委員 竹信 三恵子                           |
| 第6回 | (11・ 4) | スポーツ報道の可能性——<br>サッカーW杯などスポーツ取材の現実と課題<br>編集委員 潮 智史                      |

- 第7回 (11・11) 科学報道の時代——  
新聞の科学ジャーナリズムに求められるものとは何か  
科学関係の編集委員などを予定
- 第8回 (11・18) 環境報道の挑戦——環境報道は新聞を変えていくか  
事業担当補佐(フォーラム事務局長) 荻野 博司
- 第9回 (11・25) 地方ジャーナリズムと東京ジャーナリズム——  
「地方」から「東京」を変える  
水戸総局長・元高知新聞社会部長 依光 隆明
- 第10回 (12・2) フォトジャーナリズムの未来——「写真」を撮るということ  
ジャーナリスト学校主任研究員を予定
- 第11回 (12・9) 広告のフロンティア——「広告」はどこへ向かうのか  
広告局アートディレクター 飯田 雅裕
- 第12回 (12・16) 新聞メディアの未来戦略——  
活字メディア新聞はどう生き残るのか  
ジャーナリスト学校主任研究員を予定
- 第13回 (1・6) ディスカッション——「現代新聞論」を検証する  
受講生、講師、塚本教授、五十嵐ら
- 第14回 (1・13) 試験

#### 評価方法

出席状況とレポート、試験を総合的に勘案して評価する。レポートは第12回に課題を発表し、第13回に回収する。

#### テキスト・参考文献等

各講師が講義で資料配布、参考文献などを提示する。また毎回、その日の「朝刊」を配布、講義の資料とする。

#### その他特記事項